

平成22年度 第4回安曇野市文化振興計画策定専門委員会 会議概要

1	協議会名	平成22年度第4回安曇野市文化振興計画策定専門委員会
2	日時	平成23年1月20日 午後1時30分から午後3時まで
3	会場	安曇野市豊科交流学習センター“きぼう”学習室1
4	出席者	笹本委員長、倉石委員、薩摩委員、金井委員
5	市側出席者	丸山教育長、飯沼教育次長、竹内文化課課長、山田文化振興係長、那須野文化財保護係長、三澤文化振興係主査
6	公開・非公開の別	非公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成23年1月28日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開 会 (竹内課長)
- (2) 挨拶 (丸山教育長・笹本委員長)
- (3) 協 議
 - 1. 文化振興計画素案について
 - 2. その他
- (4) 閉 会 (竹内課長)

2 協議概要

- (1) 安曇野市文化振興計画素案について
事務局【資料内容説明】

第1章～第3章

委員長 多様性を持つ安曇野市というような一文を入れる。合併して市ができ、多様性を持つようになった。これを出発点として「文化」とは、を語りたい。(以下、市民委員会での修正点を説明)

委員 「メディア芸術」をとりたてて強調するのか？

委員長 それに関して意見が欲しい。当市において、メディア芸術を強調したいという動向はない。

委員 「芸術」の中に含まれているので、とりたてて力を入れるのではなく、記載しなくて良いと思う。

委員 「有数の社会環境」と言えるのか？「生活環境」も取り立てて優れていない。

委員長 「自然環境」としたい。

委員 市民が楽しむ日本文化として、「茶道、華道、書道、舞踊」があげられているが、これは安曇野市特有ではない。言葉の表現と構成を見直したほうがよい。

委員長 たしかに「安曇野市らしさ」がどこにもない。「安曇野市らしさ」を含めていかないと不味い。

対象とする範囲を示すことによって、これをやらねばならなくなっている。ここに具体的に上げなくても良い。

委員 読んでいて、すらっと読めない。

委員長 「安曇野らしさ」を前面に出すには、文化芸術基本法以外のこともやらねばならない。

委員 文化の範囲をここに連ねる必要はない。

委員長 「安曇野市らしい」物を作ればよい。特有の文化の中に、身近なものがあると分かるようにしたい。

委員 写真を入れるのは賛成。

委員長 きれいな表紙、美しい写真。観光パンフレットのような内容にして、手にとって読みたくなるようなものにしたい。「安曇野市らしい」ものにするには、この計画が文化的なものにしなければならない。山岳風景の点では「黒沢の滝」を入れて欲しい。田淵行男や田淵行男賞の作品を入れるのも良いと思う。

第4章1について

- 委員長 「見せたい文化」を「感じさせたい文化」に変える。
- 委員 市民が主体。「市民が市民に残したい、伝えたい」で良いのか？
- 委員長 「行政が残したい」と言うように読み替えないといけない。
- 委員 「誰が、誰に」という点で明快でない。
- 委員長 安曇野市の計画であるならば、「市」なのか、「市民」なのかで考えなければならない。
- 委員 「学ばせたい」とするのは嫌。主体がはっきりしない。
- 委員 「市と市民が共に」とするのがよいのでは？
- 委員長 「主役は市民」としている。「残したい、伝えたい、感じたい、学びたい、育てたい」とするのがよい。
- 委員 「文化財の保護」と「保存・活用」の使い分けが必要。「育てたい文化」の中の「多文化の共生」は、サブカテゴリに見えない。「多文化交流の促進」ということなら、他の文言にしたほうが良い。
- 委員 交流と促進というようなニュアンスを、前のカテゴリに含ませるのはどうか。
- 委員長 「多文化」を「多様な文化との交流」にしたほうが良いのかもしれない。
- ①の文化財の保護は、古文書を除いたもの。②の方は、古文書を指していると思う。つまり、「歴史的資料」と書くから違和感がある。「古文書等の保存活用」とすれば、そのままよいのかもしれない。
- 委員 「保護・保存・活用」なので、分けなくてもよいのでは。
- 委員 ①は一点もの、②は文字資料だ。
- 委員長 埋蔵文化財・建築物の中に文献が含まれる。意図的に市誌のことを念頭においていると思う。
- 委員 「歴史的」という言葉がある。「史資料」とすればどうか。「歴史的資料」と「文化財」の間に問題がある。
- 委員 書誌資料としておくのはどうか。これなら文書中心となる。歴史資料とすると建物も含まれる。
- 委員長 「文化財の保護」ではなく、「文化財の保護・活用」としたい。

第4章2第1節第2節について

- 委員 「文化的景観」と「歴史的街並み」を並列させるには変か。
- 委員長 文化的景観は市の指定文化財。文化的景観は歴史的景観。
- 委員 分ける必要性を感じない。歴史的街並みの保存を含めれば良い。
- 委員長 足りないのは樹木の保存整備。屋敷林なども歴史的景観である。「文化的景観の保全」だけでいけば良い。では、樹木はどうするか。
- 委員 指定文化財は関係ない。
- 委員長 樹木の保存整備はどこかに入れねばならない。「歴史的街並みの保存」をカットし、「景観を作る樹木の保護に努めます」とする。
- ここには「安曇野」という文言が要らないかもしれない。安曇野市の「山間部」のことも考えねばならない。「安曇野」といったときに山間地が外れてしまう。

第4章2第3節について

- 委員 「新市立博物館構想」は具体的にすすんでいるのか？
- 事務局 市総合計画に触れられているので考えたい。
- 委員長 「きちんと論議する体制をとっていく」ということにしたい。「市民文化ホール」の主役は誰なのか分からなくなっている。「各種催し等にも参加できる」とする。
- 委員 美術館と博物館の二本立てについて、近代美術館を美術博物館的な施設にするアイデアがあった。これはどうなったのか。
- 委員長 豊科近代美術館は美術品を展示することが出来るのか？きちんとした温湿度管理が出来ていない。高橋節郎記念美術館は高橋節郎のものを集めている。私としては、豊科近代美術館は安曇野市がやることではないと思う。作品が無いからこのように書いたのだと思う。こう書いておかないと、注意がそれてしまうと思う。ここは夢を語っている部分だと思う。「今後、温湿度環境を整える」というようなことも書くとうい。

事務局 豊科交流学習センターのホールを展示スペースとすることが出来る。近代美術館も増改築を検討している。

委員 「整備し」と書いてあるので、夢を書いておきたい。

委員 博物館構想について、市民への還元方法について語られていない。夢を語っておいた方がよい。

委員長 先ほど触れたように市誌を作るということがある。言葉を入れなおしたい。

委員 きちんとした学芸員の確保を念頭に置きたい。

委員長 市誌の編纂が入っている。ここにそういうことがセットになっていると思う。

委員 人の充実が必要なことは認識しておいて欲しい。

委員長 充実させるのは人がいなければ出来ない。そういうことだと思う。書きすぎるのは逆に縛ってしまうのでよくない。

委員 「彫刻作品を街に置く」というのは思いつきか？これは難しいことだと思う。ヨーロッパの街の発想で、東京でも街中にあるが、どうかと思う。

委員長 必要ないと思う。これをとりたててあげることは無い。

第4章2 第4節について

委員 調査・研究という文字が無いが、それは市民に促すということか。

委員長 そう理解している。

委員 安曇野市で完結している。

委員長 もっと外部との連携、活用を入れるべき。ここだけの小さい話になってしまう。

委員 ここに来たら、その分野のことを研究できるというような発信をしたい。

委員長 これ自体は市民中心のもので外に向けたものではない。

委員 計画の背後にそういうものがあつたほうがよい。

委員長 安曇野らしい典型的なものをここに入れたほうがよい。

委員 外にも発信するという意識をどこかに入れておいたほうがよい。

委員長 それを意識していれるようにしたい。「ここから日本に発信する」「発信すること」が文化に必要ということを入れたい。

委員 「市民が主役です」とあるが、「文化芸術活動」の主役ではなく、「文化振興」の主役だと思う。

委員 「東京藝術大学」と具体的に入れてよいのか？

事務局 平成17年度から行っている事業。今後も続けられると思う。

委員 他の部分には具体的な名称が無く、ここだけ具体性があるのはよくない。

委員長 若手芸術家の支援は「若手」ではなくてはいけないのか？あえて「若手」とするのはどうか。

委員 「若手」は必要ない。

委員長 年齢や性別はとるのがよいと思う。

委員 文化振興財団に「市と連携した事業展開により、市の文化振興の一翼を担っていただきます。」というのは変。「担います」が良い。

委員長 「担います」か「担わせます」か。出捐しているのだから「担います」が良い。

委員 体制図をスマートなデザインにしたい。

委員長 文化の香るものにしたいので、最終稿でデザイン上の意見をいただきたい。これをモデルにして欲しいというものにしたい。

他にあれば、事務局へ連絡して欲しい。最終確認でもう一度会議を行う。他所にないものになりそうだ。

事務局 写真を含めたものは新年度になってしまう。次回は3月の中下旬に予定している。